

日本一のこども食堂をつくる

堺市 マリリンの家 森重子さんの 思い

お話
いただいた方

子ども食堂「マリリンの家」代表 森重子さん
 社会福祉法人 堺市社会福祉協議会 北区事務所 藤本浩一さん

インタビュー：認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 圓藤
 ライター：認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 中谷



森さんと藤本さんの信頼関係からくる漫談のようなやり取りに、
 笑いが起きながらも、森さんがこども食堂をはじめたきっかけから、
 大切にされている思いまでお話を伺いました。

こども食堂をはじめたきっかけ



「マリリンの家」を始めたきっかけを教えてくださいませんか？

森さん 高校時代から赤十字の活動をしていたことや、創業およそ65年の米屋の3代目の嫁として経営者の勉強をするときに「これからは地域とともにやんなあかん」と言われたことがきっかけです。65年も知ってくれたんやから地域に何か返さないといけないと思い、自宅を開放して活動を始めました。

当時は「寝たきりゼロ作戦」という、高齢者を寝たきりにさせないためにどうしたらいいかという取り組みをしていて、ファッションショー、メイク、マナー教室、話し方教室などいろいろやっていました。

その活動がある中で2011年の東日本大震災の直後に被災地支援に行ったんですが、そこで一緒に行った人が、「森さん、僕こども食堂をしてんねん、そんな難しくないんでどうや、やらんか？」って言われて、それによってこども食堂を始めたんです。



日本一のこども食堂をつくる



マリリンの家のここがポイントというところを教えてくださいませんか？

森さん 私は商売をしているので、少し発想が普通と違うようです。みんなは何かをするときに怖がるけど、私は米屋に嫁いできて、いろんな事業をやってきたから怖くないと思っています。子どもだって「オリンピックで金メダル取る」って言うのですから、自分も思い、「日本一のこども食堂をつくる」って宣言したんです。

宣言してしまったらやらないといけないので、いつもアンテナを張って、どこがどんなことをしているかを把握して、どうしたらそれに勝るものができるかを考えていました。

藤本さん 米屋のキャリアウーマンとして事業で培ってきた凄い力があって、いろんなアイデアが出てくるんです。このアイデアをこども食堂にいかされてきたというのがあります。

森さんのアイデアでジュニアボランティアという子どもたちが活躍できる制度や、子ども部長という役割も作られているんですが、子どもたちがボランティアをやることで成長していくのが見えてくるのです。

こども食堂で子ども部長という役割を作っているところはほとんどないと思うのですが、森さんが子どもたちの良いところを見ることに優れているので、新聞部長や掃除部長などの役割ができて、自然とみんなが集まることができる「つどいの場」ができています。



地域との連携

地域の人たちとの関わりを教えてくださいませんか？



藤本さん マリリンの家は平成29年5月27日にオープンしたんですが、当時、森さんが堺東の社協本部に突然来られたんです。お話をしている時に私も近くで見ていて、凄い人だなと思っていたのですが、聞いてみると北区の人だと言うので、私も会ってお話したところからが関わりのはじめでした。

本当に立派な活動を進められていますが、その中で社協のことも頼ってくれるんです。「藤本さんあれやで、こんなことやろうと思ってる」と、逐一LINEや電話をしてくれたり、ちょっと沈んだ時は直接事務所にきてお話をしてくれたり、二人三脚でやっています。

さかい子ども食堂ネットワークは平成29年の7月に始まったんですけど、当初からこういった連携をしていたので、森さんには最初にネットワークに入っていました。

森さん こども食堂をするまでは全部自分がやっていたのですが、ネットワークでやるとまた違う利点があるだろうと。やはり一人の活動よりネットワークですることによって、いろんな集知・啓発がもっと拡がり、社協と組むことによってもっといろんな人に思いを届けることができるのではないかと考えたのです。



藤本さん ネットワークとしても、森さんのように一世代上の人が入ることによっていい効果が出ているということも感じます。ネットワークの中でも、森さんとは世代の異なる40代、50代の輪の中に入って行って情報交換をされたり、新しく始められたりする方々への声かけなども行われています。

大切にしていること

森さんが大切にされていることを教えていただけますか？

森さん 世の中に暗いイメージをあたえないように気をつけたい。伝え方に気をつけないといけないし、本当に傷ついている人がいる。



藤本さん マリリンの家は本当に明るい場所で、子どもたちが明るい笑顔で集える場所なんです。来る人来る人が感銘を受けて帰られるんですよね、だからここにまた来たくなるという特徴があります。来られるママさんたちにも一人ずつ連絡を送られていますしね。

森さん (お母さんたちのことは) 娘と思っています。娘と思っているから、明日のおかずの一品を作っている。なので「タッパを持ってきーや」って言っています。きっと今日もタッパをいっぱい持ってくると思います。

藤本さん 来られている方にもそういった思いを持たれているのですが、森さんは、こういう活動は一人では絶対にできない、みんなが手伝ってくれるから、こういう幅広い活動ができると考えられています。森さんの右腕として活動されている方は、森さんより高齢の方なのですが、この人がいないと森さんの活動はないと言えるくらいです。それ以外にも若い方々への声かけや、いろんな人を巻き込むことでこれだけの活動がうまれているんです。

活動されていることで森さんご自身に返ってきているものは何なのでしょう？

森さん 関わった子どもたちが立派になって、笑顔や成長してくれる姿を見せてくれるのが一番。こども食堂に来ている子どもたちの成長や、ボランティアさんがここに来ることが生きがいになって社会参加できていることが嬉しいと思っています。



kodomo shokudo